

ピアノ講師1年生のためのほんなり流☆ピアノの教え方

【特典】

体験レッスンのやり方



スカラー

■教材の目的

この教材は、新米ピアノ講師さん向けに、「体験レッスンやり方」をお伝えするものです。

人に教えられぐらいの技術はあるけれど、「ピアノを教える方法がわからない」ために、人に教えられないと悩む方は少なくありません。

そこで、この教材では、ピアノを教えたことがない新米ピアノ講師さんのために、**具体的なやり方と、生徒への説明の仕方など、初歩の初歩から詳しく伝授**していきます。

教える対象は、小学1年生です。

※カタカナとひらがな、また数字が数えられるぐらいのレベルです。

字が読めないと先生との意思疎通がしにくいですし、数字が数えられないとリズムを教えるのが大変です(^-^;)

そして、**ピアノをまったく触ったことがないという超初心者さん**向けです。

また、これからお伝えしていく内容は、私がセミナーや書籍からの知識、また実際にレッスンをやっていく中での経験から自分なりに考えたものなので、「実際にやってみただけ、なんかしっくりこない」と思うものも出てくるかと思えます。

ですので、**この教材をたたき台にさせていただいて、自分なりの体験レッスンを考えてみてください**。

■ 目次

■そもそも体験レッスンの目的とは？	4
■普通のレッスンと体験レッスンの違いは？	5
■体験レッスンでは何に気をつければ良い？	6
■体験レッスンのおおまかな流れ	7
① 最初の雑談（5分）	
② 実際のレッスン（25分）	
③ 終わりの雑談（5分）	
■用意するもの	8
■最初の雑談	9
■実際のレッスン	10
・STEP1：先生のピアノに合わせてリズムをたたく	
・STEP2：リズム打ちをする	
・STEP3：「ド」を覚える	
・STEP4：いよいよピアノを弾く	
■終わりの雑談	19
■先生だって緊張する！でも堂々としていよう！	20

■そもそも体験レッスンの目的とは？

体験レッスンは何のためにするのかと言うと、子どもや保護者の方に

①先生との相性や教室の雰囲気を知ってもらうため

にするものなんです。

また、(ここが一番大事です！)先生の立場から言うと、その子どもに

②どれぐらい音楽知識があるのか

を判断する場なんです。

例えば、音符が読める子どもに、音符の読み方を一から十まで説明するのは時間がもったいないですし、子どもも退屈します。音符が読めない子であれば一から十まで丁寧に説明する必要があります。



つまりは、その子どもに、

何ができて何ができないのかを確認すること

が体験レッスンの一番のポイントです。

体験レッスンで確認しておきたいこと

- ・お家にピアノやキーボードなど鍵盤楽器があるのか？(おもちゃの鍵盤でも良い)
- ・ピアノを弾いたことがあるのか？
- ・音符は読めるのか？
- ・鍵盤の「ドレミファソ」の位置を知っているのか？

→上記のことを、体験レッスンのときに聞いておかないと、次のレッスンからどの教材で進めて行くべきか、何から説明していくべきか分からなくなるので、忘れずに聞くこと！

■ 普段のレッスンと体験レッスンの違いは？

普段のレッスンは？

普段のレッスンでは、「音楽の勉強をする」というスタンスで、ピアノを弾くときの指の形から説明し、音符の長さをきっちり覚え、音符の読み方も正しく指導していきます。

体験レッスンは？

それに比べて体験レッスンは、「音楽の楽しさを伝える」というスタンスなので、音符の長さのことや、音符の読み方等は言わないことが多いです。

ただ、例外があって、例えば鍵盤ハーモニカを弾いたことがあって、ある程度の音楽知識がある子だと分かった場合は、音符の長さのことや音符の読み方等、体験レッスン時から教えることもあります。

つまりは、鍵盤楽器が全く初めての子だったら、「楽しさ重視」。鍵盤楽器の経験がある子だったら、「少し勉強の要素も入れてあげる」のが良いと思います。

要するに・・・

でも、(例外はあるにせよ) 基本的には、

「(細かいことは後でよいので) 音楽の楽しさを伝える」
というスタンスが良いと思います。

■体験レッスンでは何に気をつければ良い？

① 笑顔

子どもにとっての一番の心配事は、「先生が怖かったらどうしよう・・・」です(笑)。なので、**ニコニコ笑顔**(*^*)で接してあげるだけで充分です。親御さんも、「愛情をもって子どもに接してくれるかどうか」を見ています。

② 名前で呼ぶ

また、とっても緊張しているので、(事前に親御さんに子どもの名前を聞いておいて)

「●●ちゃん(くん)」と名前を呼んであげると親しみを持ってもらえます

③ しつけ

ただ優しいだけでなく、少し「しつけ」の部分も取り入れると、先生の印象がグッと上がります。例えば、玄関に入ってきた時にきちんと靴を並べていなかったら、「自分で脱いだ靴はきちんとそろえようね」と子どもに注意をします。すると、親御さんは、「しつけも教えてくれそう」となり先生への信頼度が増します(親は結構見えています(*'ω'*)。また体験レッスンが終わったらきちんと挨拶をすることが大事です。

④ その場を仕切りすぎない

体験レッスンは、先生が司会進行すべて自分一人でやらないといけません。でも先生がすべて**その場を仕切りすぎない方が良い**です。子どもや親御さんの反応を見ながら、その場の雰囲気や動きも大切です。「ここまで大丈夫?」、「どこか分かりにくいところはない?」とかいう声かけをすると、自分の気持ちも落ち着きます。

■体験レッスンのおおまかな流れ

①最初の雑談（5分）

・「ピアノをやってみたいと思ったきっかけ」や、「お家に鍵盤楽器があるか」、「ピアノを弾いたことがあるのか」。また「好きな曲があるかどうか」も聞いておく。

・今日の体験レッスンの全体の流れを軽く説明

※こちらが聞く前に、お母さんがスラスラしゃべってくださる場合もあるので、その場合はしっかり話を聞いてあげてください。人見知りの子どもや母さんの場合は、こちらが「尋ねたことに答えてもらう」スタンスが良いと思います。

②実際のレッスン（25分）

・STEP1：先生のピアノに合わせてリズムをたたく（5分）

→音楽に合わせてリズムをたたくことで子どもの緊張をほぐす。

・STEP2：リズム打ちをする（7分）

→ピアノを弾く前段階としてリズムを教える。

・STEP3：「ド」を覚える（3分）

→ピアノを弾く前段階として、「ド」のを見つけ方を教える。

・STEP4：いよいよピアノを弾く（10分）

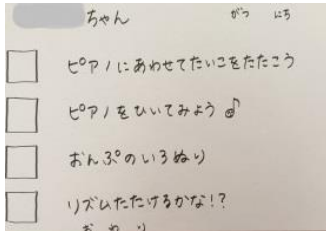
→指番号を教えて、指番号を見ながらピアノを弾く。

③終わりの雑談（5分）

お月謝や振り替えの有無など、レッスンの決まりごとについて説明します。また空いているレッスン曜日と時間をお知らせしておくが良いです。あと習うかどうかはその場で答えてもらう必要はありません。お家に帰ってゆっくり検討してもらいましょう。

■用意するもの

- ・ 時計
- ・ レッスンの流れを書いた紙（手書き）



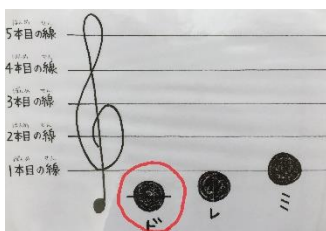
- ・ 太鼓（あると便利。キッズパーカッション KP-390（ナカノ）で購入）



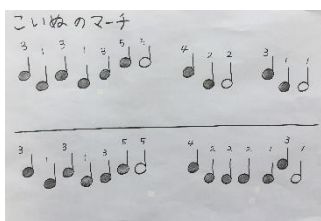
- ・ 動物カード（自作でもOK。「ピアノ体験レッスンプログラム（1）」ドレミ楽譜出版社で購入）



- ・ 真ん中の「ド」の音符（楽譜のコピーでも、手書きでも）



- ・ 楽譜（楽譜のコピーでも、手書きでも）



- ・ チラシ・レッスン規約・手帳等必要なもの

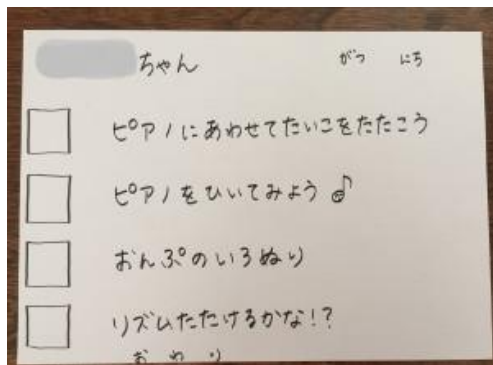
■最初の雑談（5分）

とにかく笑顔で！

子どもとお母さんに出会うこの瞬間は先生にとっても大緊張の瞬間です。

色んな心配事があると思うけど、先生は「堂々としていること！」。その方が子どもも安心します。

- ① 「●●ちゃんこんにちは！ 可愛いスカートだね～。こっちに座ってくれる？」と誘導する。※身に付けているものを褒めると子どもは喜ぶ
- ② 「知らないお家だと緊張するね～。ところで●●ちゃんは どうしてピアノがやってみたと思ったのかな？」とそれとなくきっかけを聞く。
「そうなんだね～。鍵盤ハーモニカは弾いたことある？」「お家にピアノはあるかな？」「好きな曲はある？」など。ここで鍵盤経験の有無と好きな曲を聞きだす。黙ってしまう子どもでもお母さんが答えてくれるので大丈夫です。
- ③ 「今日はね、この順番でやっていくよ」とレッスンの流れを書いた紙を渡します。



「1つできたら口の箱にシールを貼っていこうね。全部のシールが貼れたらレッスンは終わりだよ」と言います。

いきなりレッスンを始めるよりかは、全体の流れを見せてあげるとレッスンの目安がわかって安心します。先生もその紙通り進めればいいので、手順メモを見なくても済みます。

■実際のレッスン（25分）

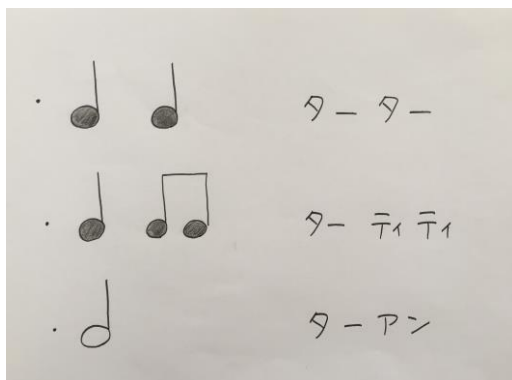
STEP1：先生のピアノに合わせてリズムをたたく

（ねらい）→音楽に合わせてリズムをたたくことで子どもの緊張をほぐします。

また、ピアノに合わせてリズム打ちができるかどうかを見ます（リズム感チェック）

※リズムをたたくのは、太鼓じゃなくてもカスタネットや手拍子でも大丈夫です。

子どもたちは先生のマネをするのが得意なので、年中さんでも簡単にたたけます(*^*)



流れ

- ① 「じゃあ今からピアノに合わせて太鼓をたたいてみようね」
- ② 「最初はこれぐらいの速さで太鼓をたたいてみよう」（ターターターター）
- ③ 「じゃあ次はこんな速さになるよ、（せーの）」（ターティティ ターティティ）
- ④ 「じゃあ今度は少しゆっくりになるよ」（ターアン ターアン）

※太鼓の棒で「大きな空気のボールを作るようにたたいてみよう」の声かけ

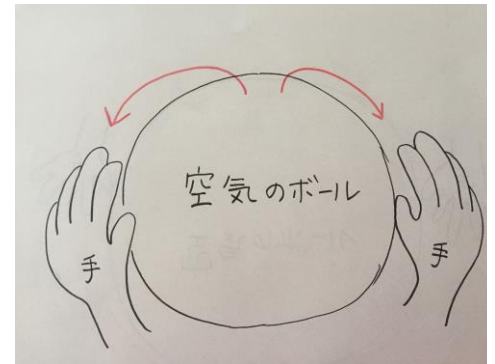
⑤「はい。最初の速さに戻るよ、(せーの)」

※最後はテンポを速くして終わると楽しい(^^)

→ (先生の声かけ)

- ・「緊張しないで大丈夫だよ。ちょっと深呼吸しようか！」
- ・「お母さんも一緒に手拍子をしてあげてください」
- ・「そうそう。上手だね」
- ・「もう少し続けようね」

いろんな言葉をかけて子どもの緊張をほぐしてあげる



ピアノ伴奏のイメージ動画 (2分)

下記のリンクをクリックしたら動画が見られるようになっています。

<https://youtu.be/8rs7vc2LqNA>

動画で弾いている楽譜はこちらです。 [こちらをクリック](#)すると楽譜が出てきます。

印刷してお使いください (計2枚)

(まとめ)

- ・「ターター」「ターティティ」「ターアン」のリズムで太鼓をたたく
- ・この段階では、「2分音符は2拍のばす」等の音符の種類の説明はしないし、拍の説明もしません。ここで大事なのは、ゆっくりのリズム(2分音符)をたたくときは、「大きな空気のボールを作るようにたたく」という音の長さのイメージを持ってもらうこと
- ・音の長さ(音価)が長い=大きなボール
- ・音の長さ(音価)が短い=小さなボール

STEP2：リズム打ちをする

(ねらい) →

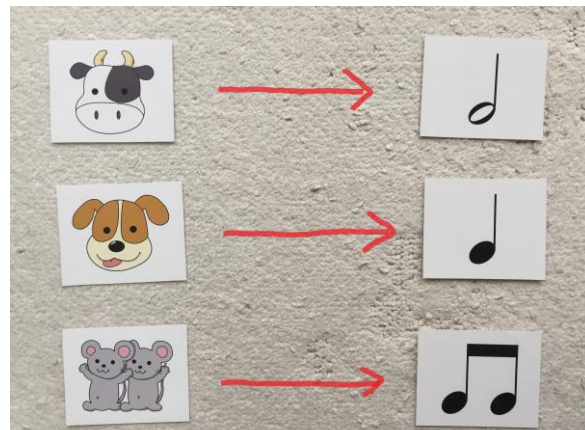
・ピアノを弾く前段階としてリズムを教えます。3種類のリズムを覚えたり、(2分音符、4分音符、8分音符) 音符と音の長さを一致させます。

3種類の動物カードを使います。

うし・・・ターアン (2分音符)

いぬ・・・ター (4分音符)

ねずみ・・・ティティ (8分音符)



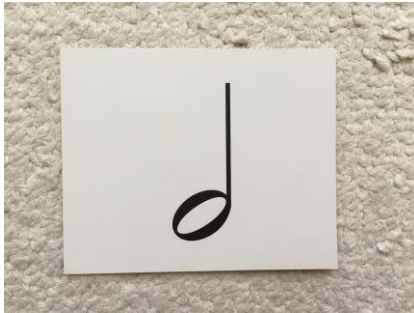
※「ターアン」「ター」の呼び方をリズム唱と言います。言いやすいリズムでOKです。ただしリズムの言い方は統一しておくこと！

流れ

- ① うしのカードを見せて、「これ何の動物？」と尋ねる
- ② 「うしだね。じゃあターアンでたたこっか」と言って手でリズム打ちをする
- ③ いぬのカードを見せて、「これ何の動物？」と尋ねる
- ④ 「いぬだね。いぬはターでたたこうね」とリズム打ちをする
- ⑤ ネズミのカードを見せて、「次は何の動物かな？」と尋ねる
- ⑥ 「ネズミだね。ネズミはティティでたたこう」とリズム打ちをする
- ⑦ 子どもに動物カードを並び替えさせて自分の考えたリズムをたたいてもらう
- ⑧ 「今度は動物カードを裏返してみるよ。お玉みたいな絵が出てきたね。これは音符って言うんだよ」と言い、**音符を見てリズム打ちをする。**

- ⑨ 白色、黒色の区別をしっかりと説明する。「白いお玉がターアン、黒いお玉がターね。ネズミさんのカードは、2つの黒いお玉が線でつながってるんだよ」と言う。

白いお玉がターアン



黒いお玉がター



ポイント

動物カードを見せるときは、必ず「何の動物？」と子どもに尋ねるスタンスで。先生が「これはうしさんのカードだよ」とは言わない。リズム打ちをするときは先生が先に手本を見せてから打たせる。

(まとめ)

「動物カード」を使って3種類のリズムと音符を覚える。体験レッスンでは、2分音符とかの音符の種類の説明はしないし、2拍のばす等の説明もしません。「音符」という言葉を教えるのと、「白いお玉がターアン」と「黒いお玉がター」であることがわかればOK！

STEP3 : 「ド」 を覚える

(ねらい) →

ピアノを弾く前段階として、真ん中の「ド」のを見つけ方を教えます。同時に「ド」の位置と黒鍵の関係の把握します。

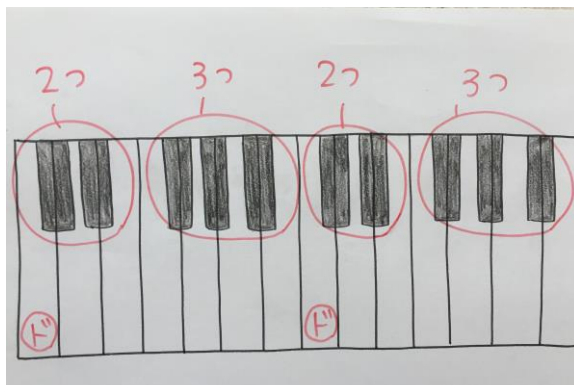
※体験レッスンに来てくれる子どもは、だいたい鍵盤の「ド」が分かっていることが多いです。でも、復習として当たり前のことを正しい覚え方で再認識することが大事なので、丁寧に伝えます。

流れ

【鍵盤の見方を教える】※ピアノ経験者にとっては当たり前のことなのですが、ピアノの導入でとっても大事なところですよ)

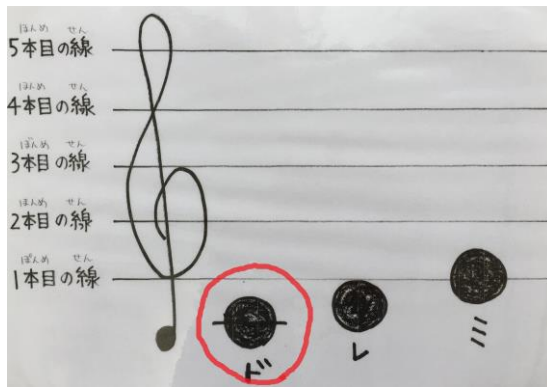
- ① 「ピアノっていうのは、白い鍵盤と黒い鍵盤があるのね。で、黒い鍵盤の方を見てほしいんだけど、黒い鍵盤は2つと3つがあるんだよ」と言って、すべての黒鍵を弾いてもらう。
- ② 右手・・・2 3 (2つの鍵盤)、2 3 4 (3つの鍵盤)
左手・・・3 2 (2つの鍵盤)、4 3 2 (3つの鍵盤)

●2つの黒い鍵盤の左下が「ド」



- ③ 「上手にできたね。今度は真ん中の「ド」を覚えようね。(音符が書いてある紙を見せて)、丸に線がつきささっている音符が「ド」だよ」と教える。

●真ん中の「ド」の音符



- ④ 「で、この「ド」の場所は、(さっき弾いた) 2つの黒い鍵盤の左下なんだよ。」と言う。
- ⑤ 「じゃあ真ん中の「ド」の場所は分かるかな」と鍵盤を探してもらおう。※「ピアノの真ん中に座って、自分のおへそに近いところにあるのが真ん中のドだよ」と言う。
- ⑥ 「じゃあ、他にもたくさん「ド」があるよね。この鍵盤の中に「ド」は何個あるかな？」と言って、すべての「ド」の音を弾く

(まとめ)

- ・ 2つの黒鍵、3つの黒鍵の違いを分かってもらう。
- ・ 真ん中の「ド」の音符の教え方 → 「丸に線がつきささっている音符が「ド」
- ・ 真ん中の「ド」の場所の教え方 → 「黒い2つの鍵盤がある左下が「ド」

STEP4 : いよいよピアノを弾く

(ねらい) →

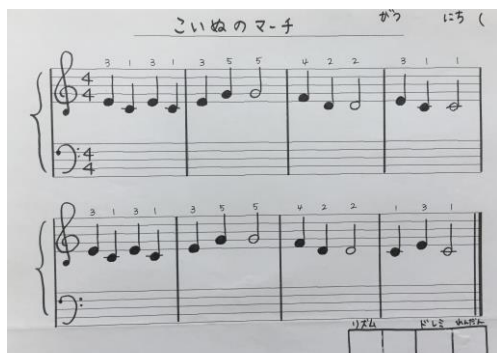
体験レッスンのときは、音符を読んでピアノを弾くのではなく、指番号を見ながら弾きます。初めてピアノを弾く子どもにとっては、音符を見ながら指番号どおりに指を動かすことがとっても難しいのです。

選曲の仕方

子どもが知っている曲がとつきやすいです。初めて弾くなら、「メリーさんの羊、ちょうちょ、かっこう」が弾きやすいです。これらの曲は、右手「ドレミファソ」の5本の指だけで弾くことができます。ここで注意したいのが、「チューリップ」にしないこと。「ソソミソララソー」のところ指替えが出てくるので、避けた方が良いでしょう。

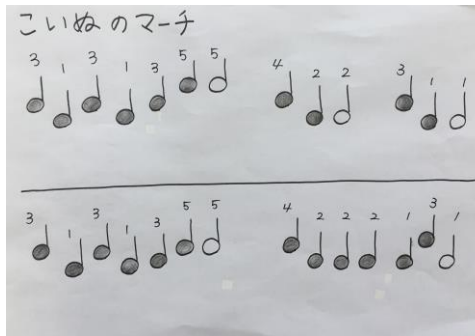
楽譜のこと

大きい字で書かれた楽譜が見やすく良いです。市販の本のコピーでも良いですし、私の場合は手書きの楽譜を使っています。



小学1年生なら、5線がある楽譜にします。指番号を書いておきます。

年中や年長さんだと、5線が書いてあると音符が見つらいので、あえて5線のない楽譜を使います。



※5線のない楽譜は、線がない分、音の上がり下がり、音符の種類がはっきりわかって幼児には見やすいです。子どもたちは指番号を見ながら器用に弾きますので安心してください。

流れ

- ① 「こいぬのマーチ」を弾いてみようね。音符に数字が書いてあるんだけど、これは指番号っていうのね。ピアノを弾くときは、この指番号を守って弾くことが大事なんだよ」と指番号の大切さを伝える
- ② 「で、右手を出してみて、親指から順番に1 2 3 4 5と弾いていくよ」。左も同じだね「親指から数えて1 2 3 4 5だよ」と指番号を教える。「じゃあ、右手の3の指はどれかな？動かしてみよう」と言って、指番号が分かってるかどうか指を動かさせる



- ③ 「はい。じゃあ指番号がわかったところで、こいぬのマーチを弾いてみよう」と言う。
- ④ 「上手にできたね」

一番最初にピアノを弾かせるときの注意点！

体験レッスンの段階では、子どもはとっても緊張しているので、指番号どおりに鍵盤を押すことだけで精一杯なんです。

その状態で、「はい。ここ2分音符やから2拍伸ばすよ」と音符の長さの説明をしたり「この音はレだよ。鍵盤はこの場所ね～」とか一度にいろんなことを言いすぎると、子どもは混乱するので言わない方が良いです。(実際、初期のレッスンでたくさん言いすぎて子どもに泣かれそうになった経験があるので・・・(^;))

なので、リズムどおりに弾いてなくてもOKですし、音符も読めなくていいんです。また指の形も伝えなくて全然OK！(でも、あまりにも力いっぱいガチガチに弾いている場合は、「もう少し指の力を抜いて弾いてごらん。そんなに力を入れなくても音は鳴るよ」と言ってあげることもあります。

(まとめ)

- ・ 音符が大きく書かれている楽譜を選ぶ
- ・ 子どもが知っている曲を選ぶ(「ドレミファソ」の5本の指で弾ける曲)
- ・ 小学1年生なら5線がある楽譜。年中、年長さんだとあえて5線のない楽譜。
- ・ 指番号を教える
- ・ 指番号を元にピアノを弾く

■終わりの雑談（5分）

ほっとしすぎないで必要なこときっちり伝える

レッスンが終わったら、先生は一安心ですが、忘れずに、お月謝のことや振り替えの有無等、レッスンの決まり事を伝えます。また空いているレッスン曜日もお知らせしてあげると良いです。また、習うかどうかはその場で決めてもらわなくてもOKです。

- ① 「こんな感じで、リズム打ちをしたり、今日はやりませんでした、音符を読む勉強をしたりしながら、少しずつピアノに親しんでもらえたらと思います」
- ② 「で、私は音大は出ていないので、専門的な指導はしていません。あくまでも趣味でピアノを楽しんでもらうことを第一に考えています」と教室の方向性をきっちり説明しておく。
- ③ 「今のところ、●曜日の●時からは空いていますので、一度ご検討ください。恐れ入りますが2週間以内にどうされるか、ご連絡いただけたらと思います」
※「良かったらいつでも来てください」にすると、いつまでも待たないといけないので、入会してもしなくてもお返事をもらうようにする方がこちらの気持ちがラクです。

■ 先生だって緊張する！でも堂々としていよう！

体験レッスンをするのに、こんなに考えておくことがあるのかとびっくりされたかもしれません。ここまで読んでみて「やっぱり私には無理だ・・・」と思われたかもしれません。

でも、不安になって当たり前なんです。だって、まだあなたは体験レッスンをしたことがないんですから・・・。経験がないことをやるんですから、不安になるのは当然のことです。

なので、子どもに体験レッスンの経験をさせてもらいます（初めて来てくれる子どもには申し訳ないけど(;´▽`)）。不安を打ち消すには経験するしかないですよ。場数を踏むしかありません！

緊張するのはしょうがないです。だけど、一番ダメなのは「おどおどした自信のない姿」を子どもに見せることです。

自分が逆の立場だったらわかりますよね。理想の先生は、

「先生もちょっと緊張していて、でも堂々とはきはきしている」 これぐらいが良いと思います。

普段はのんびりマイペースなあなたでも、生徒が来たら、「堂々とした自分」にいつでも切り替えられるようにしたいものです。

そうやって、新米講師さんは、生徒や親御さんに育ててもらって成長していくんです(*^^*)

■ 規約

このレポートの利用に際しては、以下の条件を遵守してください。

このレポートに含まれる一切の内容に関する著作権は、レポート作成者に帰属し、日本の著作権法や国際条約などで保護されています。

著作権法上、認められた場合を除き、著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部を、複製、転載、販売、その他の二次利用行為を行うことを禁じます。

これに違反する行為を行った場合には、関係法令に基づき、民事、刑事を問わず法的責任を負うことがあります。

レポート作成者は、このレポートの内容の正確性、安全性、有用性等について、一切の保証を与えるものではありません。また、このレポートに含まれる情報及び内容の利用によって、直接・間接的に生じた損害について一切の責任を負わないものとします。

このレポートの使用に当たっては、以上にご同意いただいた上、ご自身の責任のもとご活用いただきますようお願いいたします。

◆作成者 スカラー

◆特定商取引法に基づく表記 <http://loopline.shop-pro.jp/?mode=sk>